



高校選抜 男子ロードレース終盤のトップ集団

シクリスムエコーNo.128 2006年4月号



平成18年度 事業計画 ..... 2  
2006 UCIトラック世界選手権大会 ..... 4



第31回チャレンジサイクルロードレース大会 ..... 6



平成17年度全国高等学校選抜自転車競技大会 ..... 8

第7回チャレンジ・ザ・オリンピック ..... 11



世界大学自転車競技選手権大会 ..... 12

2005年サイクルサッカー・ワールドカップ・ファイナル .. 14

JCF 維持会員のお願い ..... 15

平成17年JCF優秀選手について ..... 16

平成17年度 全国自転車競技指導者研修会 ..... 16

中野浩一氏が紫綬褒章を受章 / 新理事の紹介 ..... 16

加盟団体事務局住所等の変更について ..... 16

連盟の動き ..... 16



この広報誌は、「競輪公益資金」の補助を受けました。  
<http://www.keirin.go.jp/>

# 平成18年度事業計画

財団法人 日本自転車競技連盟

## 方針

### 事業計画概要

政府は2月の月例経済報告で景気の基調判断を「回復している」と発表した。本連盟の運営財源の大半を占める公益補助金の元となる競輪の売上げは、平成3年をピークに今だ下げ止まらない厳しい状況が続いている。

このような状況下、今年度においても自主財源の開拓と徹底した経費の削減はもとより、連盟組織・機構の合理化についても見直しを図り、連盟の存在意義である自転車競技の普及振興を推進する。

前評判の高かったトリノオリンピックでは、結局荒川静香選手の金1つに終わった。この結果について、選手団長は国民に謝罪するとともに各競技団体に猛省を促した。

いよいよ2年後に迫った北京オリンピック、当然の如く2大会連続でのメダルを期待する声が多いが、安易な期待だけ膨らまして現状分析を誤るとトリノの二の舞になる恐れがある。

我々はアテネでの経験を糧に、強化合宿、国際大会派遣等世界を見据えた選手強化に努め、まずは今年12月のドーハ・アジア競技大会で好成績を挙げ、更に北京での夢の実現を目指して邁進したい。

### 〔総務部〕

財政部会意見書に基づき、自主財源の確保を最重要課題として、恒常的・安定的な収入の確保を目指し、協賛企業の確保、新規獲得を推進する。一方、管理費等諸経費の削減に努め、特に今年度においては借室料削減のため事務所の移転を実施する。

また、連盟広報誌「シクリスムエコー」及びホームページの更なる内容充実に努め、自転車競技の魅力を広く一般に発信する。

財政問題はじめ課題は多いが、評議員会、理事会及び常務理事会並びに各委員会を通して、適正・円滑な運営を図る。

### 〔業務部〕

未来を見つめ、とりまく環境への危機感を再認識し、連盟一丸となった早

急な取り組みが求められている。夢と感動を与える競技を目指し、その魅力を社会に発信するための努力、それが飛躍へとつながる。

観客を魅了するには、最高のパフォーマンスを表現できる選手を支える環境の整備が不可欠である。だれにでも分かる種目、低年齢層の開拓、また世界への明確な行程の確立が未来へと続く。その構築のためにそれぞれがひとつ、出来ることを実践する。

### 〔選手強化部〕

2年後の北京オリンピックに向け新編成される強化指定選手を中心に、トラック、ロードにおいては一層の選手強化を図る。

1. トラック・ロード共にアジア大会でのメダル獲得のため重点的に選手強化を図る。
2. トラックにおいては、2007世界選手権出場枠獲得のため、ワールドカップおよびアジア自転車選手権に選手を派遣し、上位入賞できるよう選手強化を図る。
3. ロードにおいては、2006年世界選手権に複数の出場枠獲得に向け選手強化を図る。また、ジュニアについては2006年ジュニア世界選手権及びジュニア国際大会に派遣し入賞できるよう選手強化を図る。

### 〔国際事業推進室〕

スポーツ団体の存在の意義を踏まえてその将来を考えると、国際化は重要なテーマである。国内外における国際的事業推進において地勢的な条件による障壁は動かし難いものとしても、通信手段の発達した現在においては言語における障壁を低くすることにより大いに推進を図ることができる。このために、外国語に精通した者を各方面で登用していくことと、諸文書を日本人と外国人が相互に理解できる形にすることなどが重要であろう。

また、日本の競技者が国際的に活躍するための基盤として、ランキングを含む国内諸制度を国際的制度和整合化し、競技者や審判、コーチなどの活動の支援体制を整備していくことも重要で

ある。

上記のことを踏まえて、国際事業推進室は、本連盟諸事業の場において、人材の発掘/養成/登用、資料/文書の2ヶ国語(日本語・英語)化、国内外の情報の収集、対外(国内外)的な情報の蓄積および公開、競技成績に基づくランキング制度の整備、そしてこれらのための事務局内での情報の共有化および事務局整備を推進する。そして、これらの円滑な推進のため、関係者/関係団体との良好で緊密な協力関係を涵養すべく活動する。

以上が本年度の事業計画の方針及び概要であるが実施事業については以下のとおりである。

### 実施事業

#### 1 国内競技大会関係事業

次の主要大会は担当専門委員会において実施要項を作成し適切な大会運営を図り自転車競技の啓発普及及び競技者審判員の技術の向上に資するものである。

- ①全日本自転車競技選手権大会
- ②その他国内大会

#### 2 国内での国際競技大会事業

ジャパンカップロードレース大会  
日韓対抗学生自転車競技大会

#### 3 国際競技大会関係事業

世界選手権大会、ワールドカップ大会等の国際大会に日本代表選手団を派遣する。またUCI等国際機関の会議に参画し国際情勢を的確に把握する。国際審判員等を諸外国へ派遣し高度な理論及び技術の習得を行うとともに積極的な国際交流を図る。

- ①世界選手権自転車競技大会(種目別)選手派遣
- ②アジア競技大会派遣
- ③アジア自転車競技選手権(トラック、ロード、MTB)大会選手派遣
- ④ワールドカップ等国際大会選手派遣
- ⑤2005年国際グランプリケイリン選手派遣
- ⑥ACCTラックアジアカップ大会の選手派遣
- ⑦国際会議への派遣
- ⑧国際審判員の派遣

#### 4 加盟団体関係事業

加盟団体が実施する事業が自転車競技の啓発普及及び競技者、審判員の技術の向上を図るうえからも円滑に運営できるように支援するものである。

##### (1) 都道府県連盟関連事業

- ① 全国地域別道路競走大会(8地域)
- ② 全国地域別トラックレース大会(8地域)
- ③ 全国都道府県別自転車競技選手権大会(47都道府県)

##### (2) 日本プロフェッショナルサイクリスト協会関連事業

- ① 全日本プロフェッショナル自転車競技選手権大会
- ② 全国地区別プロフェッショナル自転車競技選手権大会
- ③ プロサイクリスト強化事業他

##### (3) 全国高等学校体育連盟自転車競技専門部関連事業

- ① 全国高等学校選抜自転車競技大会(トラック、ロード)

- ② 全国高等学校自転車競技合宿

##### (4) 日本学生自転車競技連盟関連事業

- ① 全日本大学対抗選手権自転車競技大会
- ② 全日本学生選手権自転車競技大会(トラック、ロード、チームロード)

##### (5) 全日本実業団自転車競技連盟関連事業

- ① 全日本実業団対抗サイクルロードレース大会
- ② 全日本実業団自転車競技選手権大会
- ③ 東西地域別実業団ロードレース大会他

#### 5 アンチドーピングの推進事業

国内全日本大会クラス実施

#### 6 強化・普及事業

強化指定選手については、国際大会で十分好成績が収められるよう、さらに選手の強化・育成に努める。また次代を担う選手に対しては国内外の競技大会に派遣し世界に通用する選手の育成に努める。

さらに自転車競技者の拡大及び競技大会への参加者増加を図るべく自転車界に限らず広い範囲において競技情報の提供を行い普及事業を展開する。併せて全国各地より選手を一同に集め優秀な人材発掘を目的としたチャレンジ・ザ・オリンピック等の実施・支援を行う。

- (1) 選手強化訓練事業
- (2) 全国自転車競技指導担当者研修会・審判講習会
- (3) 自転車競技の普及・広報事業
- (4) ケイリン種目普及指導事業
- (5) 広報誌発行事業
- (6) チャレンジ・サイクル・ロードレース大会

#### 7 調査研究事業

だれもが気軽に参加できる環境を構築することにより、競技の普及、発展に繋がる方策を研究する。

また国際自転車競技連合(UCI)に係わる情報の収集及び諸外国の実状を分析・検討し国際的な水準に合致するよう競技環境の整備方法等を研究する。

- (1) 国内競技大会に関する研究
- (2) 国際競技における制度等に関する調査研究
- (3) 選手強化等に関する調査研究
- (4) 登録システムの整備

#### 共催事業の実施

関係支援団体と共にロードレースの開催を通して我が国における自転車競技の啓発及び健全なる国民生活の向上を図りもって体育文化の発展に寄与するものである。

- (1) ツアー・オブ・ジャパン(自転車月間推進協議会他)
- (2) ツール・ド・おきなわ(NPO法人ツール・ド・おきなわ協会)
- (3) ツール・ド・北海道((財)ツール・ド・北海道協会)
- (4) ツール・ド・とうほく((財)河北文化事業団)
- (5) 3 DAY CYCLE ROAD熊野(3DAY ROAD熊野実行委員会)
- (6) シマノ鈴鹿国際ロードレース大会((株)シマノ)

### 収支予算書総括表

(単位：円)

科 目	合 計	一般会計	日本体育協会 補助事業 特別会計	国際競技力 向上事業 特別会計	お光の キャンプ事業 特別会計	日本自転車振興会 公益補助事業 特別会計	スポーツ振興 基金事業 特別会計
I 収入の部							
基本財産運用収入	50,000	50,000	0	0	0	0	0
ツール・ド・北海道免税募金交付金収入	22,000,000	22,000,000	0	0	0	0	0
会費収入	19,000,000	19,000,000	0	0	0	0	0
事業収入	463,119,000	16,300,000	0	0	0	446,819,000	0
補助金等収入	105,520,000	65,350,000	7,800,000	21,000,000	3,200,000	4,390,000	3,780,000
負担金収入	15,350,000	4,850,000	0	10,500,000	0	0	0
寄付金収入	500,000	500,000	0	0	0	0	0
雑収入	1,501,000	1,500,000	1,000	0	0	0	0
敷金・保証金戻り収入	13,700,000	13,700,000	0	0	0	0	0
繰入金収入	4,294,000	0	0	0	0	3,034,000	1,260,000
当期収入合計(A)	645,034,000	143,250,000	7,801,000	31,500,000	3,200,000	454,243,000	5,040,000
前期繰越収支差額	97,794,750	67,792,769	4,614,315	3,612,866	21,774,800	0	0
収入合計(B)	742,828,750	211,042,769	12,415,315	35,112,866	24,974,800	454,243,000	5,040,000
II 支出の部							
事業費	548,784,000	47,000,000	7,801,000	31,500,000	3,200,000	454,243,000	5,040,000
ツール・ド・北海道免税募金交付金支出	22,000,000	22,000,000	0	0	0	0	0
管理費	52,056,000	52,056,000	0	0	0	0	0
特定預金支出	3,200,000	3,200,000	0	0	0	0	0
繰入金支出	4,294,000	4,294,000	0	0	0	0	0
予備費	1,000,000	1,000,000	0	0	0	0	0
当期支出合計(C)	631,334,000	129,550,000	7,801,000	31,500,000	3,200,000	454,243,000	5,040,000
当期収支差額(A)-(C)	13,700,000	13,700,000	0	0	0	0	0
次期繰越収支差額(B)-(C)	111,494,750	81,492,769	4,614,315	3,612,866	21,774,800	0	0

# 2006 UCIトラック世界選手権大会

ポイントレース盛が7位、1kmTT井上が自己最高1:03.799で8位

4月4日から4月7日までCSC250mバンクで事前合宿を行い、穴田団長率いる日本チームは、4月8日ボルドーに向け成田を出国した。4月9日から12日までの指定練習内に、室内板張りバンクでスタート、フライングダッシュ、個々の種目トレーニングを行った。また、ロードレーサーで周長7kmのコースを走り、コンディションの調整も行った。

4月13日

## ポイントレース・チームスプリント

午前10時50分、最初に中距離の盛一太(愛三工業)がポイントレース予選15kmに出場し、積極的にレースを進め1回目のポイントで2点、5回目に5点を取り、予選を5位で通過して決勝へ進んだ。決勝戦は午後8時10分、40km・16スプリントで始まった。決勝戦は前半押さえ気味にして、4回目のポイントで2点、6回目に3点、9回目のポイントでは5点を取り、中盤で4位に付けて後半に期待したが、誰も逃げが決まらずスピードと持久力の戦いとなった。最後のポイントで2点追加したが、12点の7位入賞にとどまった。平均

スピード50km/hの高速レースについていき、最終ポイントも取って今後に期待がもてた。

チームスプリントは午後6時から始まり、金子貴志

(JPCA愛知)、渡辺一成(JPCA福島)、井上昌己(JPCA長崎)のスタート順で挑み、45.773で9位に終わった。上位4チームは、スタートを17秒台で走り、44秒前半でゴールしている。今回はフランスが43秒台で優勝した。スタートマシンを使い250mバンクでのトレーニングが、絶対必要と確信した。阿部コーチも同意見である。

4月14日

## ケイリン・1kmタイムトライアル

ケイリンは午後12時開始。エントリー枠が一人しか無く、渡辺が1回戦に出場した。スタートで2番手に着くもラスト2周で7番手になり、大外をまくるが届かず3着におわり敗者復活戦にまわった。敗者復活戦では、先行態勢に入ったが、ラスト2コーナーで外を牽制する際にインをつかれて、勝負所で踏めず3着に終わり次に進めなかった。これからの課題として、250mバンクでの実戦的トレーニングを取り入れていかねばならないだろう。

1kmタイムトライアルは、井上と稲垣裕之(JPCA京都)の二人が出場した。午後8時20分より始まり、8番目に井上がスタートして1.03.799の自己最高を記録したが、8位入賞に終わった。稲垣は18番目にスタートしたが、スタートのもたつきがひびき1.05.756で18位の成績で終えた。HOY(GBR)が1.01.361で優勝した。

4月15日

## スプリント・スクラッチ

スプリントは午前10時に始まり、金



子、渡辺、北津留翼(JPCA福岡)が出場した。200mタイムアタックでは渡辺が10.427の18位、北津留が10.542の22位で1回戦に進んだが、金子は10.589の26位におわり次に進めなかった。午後12時10分から1/16Fが始まり、北津留がKWIATKOWSKI(POL)と対戦した。先行の指示をしたが不意をつかれ、相手に先行されて追い込めずにここで敗退。次に渡辺がTOURNANT(FRA)と対戦し、先行して逃げ切れたかと思った



ポイントレースの盛



1kmタイムトライアルの井上

が追い込まれて敗退し、日本チーム短距離陣のレースはすべて終了した。

スクラッチは午前の予選が無くなり、午後3時45分からの決勝戦のみとなり、西谷泰治(愛三工業)が出場した。やはりこのレースもハイスピードなレース展開で行われた。前の集団をキープするようにと指示し、逃げにのれるようにと願ったが誰一人逃げれず、最終ゴール勝負でレースが終わった。レース中盤に西谷と4人のグループが逃げの態勢に入ったが、オーストラリア選手がペースダウンをして集団に追いつかれてしまう残念な場面もあった。ゴール勝負では後方におかれて、西谷の順位は16位。これで日本チームのレースは、すべて終了した。今回の世界選対に対しての準備不足もあったが、選手達はよく頑張ったと思う。

また、日自振下重会長と競技連盟岩



楯会長の激励を当地で受け、選手達も気持ちよくレースをする事が出来たと思う。メカニックの森さんとマッサーの柳さんのサポートも良く、スタッフに加わった日競選塚本支部長の協力も

有り、無事に終わる事が出来た。それに各関係団体の皆様のご支援を頂き有難うございました。深く感謝をいたし報告とさせていただきます。

(監督 福田 公生)

#### [ 競技結果 ]

2006年UCIトラック世界選手権大会  
(2006/4/12-16 フランス・ボルドー)

##### 男子1kmタイムトライアル

1	HOY Chris	GBR	1:01.361
2	KERSTEN Ben	AUS	1:02.085
3	PERVIS Francois	FRA	1:02.696
8	井上 昌己	JPN	1:03.799
18	稲垣 裕之	JPN	1:05.756

##### 男子スプリント

1	BOS Theo	NED	
2	MACLEAN Craig	GBR	
3	NIMKE Stefan	GER	
	渡邊 一成	JPN	1/16F敗退
	北津留 翼	JPN	1/16F敗退
	金子 貴志	JPN	予選敗退

##### 男子ケイリン

1	BOS Theo	NED	
2	ESCUREDO RAIMONDEZ Jose Antonio	ESP	
3	TOURNANT Arnaud	FRA	
	渡邊 一成	JPN	1回戦敗退

##### 男子スクラッチ

1	NEUVILLE Jerome	FRA	
2	COLLA Angel	ARG	
3	TAMOURIDIS Ioannis	GRE	
17	西谷 泰治	JPN	

##### 男子ポイントレース

1	SCHEP Peter	NED	31p
2	RATAJCZYK Rafal	POL	18p
3	KIRYIENKA Vasili	BLR	15p
7	盛 一大	JPN	12p

##### 男子チームスプリント

1	FRA	43.969
2	GBR	44.194
3	AUS	44.600
9	日本 井上・金子・渡邊	45.773



# 第31回チャレンジサイクルロードレース大会

春の嵐を制したのは 別府 匠(愛三工業レーシング)



雨中の心臓破りの坂を行くA-Eの先頭集団

2006年のシーズン開幕を告げる、今年で31回を数える「修善寺のチャレンジロード」が4月2日(日)静岡県伊豆市・日本サイクルスポーツセンター(5kmサーキット)で開催された。

チャレンジの名に相応しく、小学1年生から最高年齢71歳まで、幅広い年齢層のアスリートが集まった。

大会当日は天気予報通り午前中から雨となり、特にA-E・A-Fクラスの時間には豪雨・強風に見舞われたが、全国から704名が出場し健脚を競った。

男子エリート(A-E)では、愛三工業レーシングの別府 匠が50kmを一人で逃げ切り、女子の部(A-F)では鹿屋体育大学の萩原麻由子が、それぞれチャレンジロード初優勝を飾った。



土砂降りの中、独走フィニッシュの別府(A-E)

風情情の車庫



A-F優勝の萩原(右)



A-Uは西日本チャレンジに続いて池田(先頭)が優勝



前週の高校選抜に続いて優勝の吉田(A-J)



A-M優勝の松井(右端)と2位の渥美(先頭)

## [ 競技結果 ]

第31回チャレンジサイクリングロードレース大会  
(2006/4/2 静岡・日本CSC)

## A-E (60km)

1	別府 匠	JPCA	愛三工業	1:44:40.54
2	辻 貴光	京都	シノ	1:45:10.65
3	鈴木 真理	JPCA	ミヤマビル	1:45:13.22
4	飯野 嘉則	東京	東京電大	1:45:13.34
5	米山 一輝	茨城	スパ-K	1:45:16.75
6	小畑 郁	東京	なるしま	1:45:18.15
7	大内 薫	JPCA	シノ	1:45:18.28
8	中村 誠	石川	ミヤマビル	1:45:23.78
9	鈴木 謙一	静岡		1:45:23.89
10	笥 五郎	愛知	コムレイト	1:45:23.99

## A-U (40km)

1	池田 丈志	奈良	鹿屋体大	1:08:07.83
2	島田 真琴	東京	法政大学	1:08:28.62
3	村上 純平	山形	鹿屋体大	1:08:28.74
4	森山 大知	神奈川	宮田工業	1:08:28.87
5	上野原洋介	大分	日本大学	1:08:29.29
6	大村 寛	鹿児島	法政大学	1:08:30.74
7	菊池 誠晃	愛媛	朝日大学	1:08:37.06
8	柴田 一樹	神奈川	朝日大学	1:08:51.59
9	宮崎 隼	東京	明星大学	1:08:57.65
10	渡辺 将大	群馬	中央大学	1:08:58.23

## A-J (40km)

1	吉田 隼人	奈良	榛生昇陽	1:10:36.66
2	初山 翔	神奈川	麻溝台高	1:10:36.80
3	伊丹 健治	群馬	前橋育英	1:10:36.94
4	伊藤 雅和	神奈川	法政二高	1:10:37.01
5	入部正太郎	奈良	榛生昇陽	1:10:52.18
6	松田 隆寛	鳥取	倉吉東高	1:10:52.44
7	増田 威寛	千葉	我孫子高	1:12:11.88
8	藤田 勝也	和歌山	和歌山北	1:12:12.49
9	加藤 龍二	岐阜	岐南工高	1:12:12.81
10	木守 望	和歌山	紀北工高	1:12:23.22

## A-M (35km)

1	松井 久	大阪	カガリAS	1:03:04.35
2	渥美 守弘	静岡	吉田機工	1:03:04.67
3	奈良 浩	埼玉	カボソ	1:03:04.68
4	浜頭 恭	東京	伊藤忠テクノ	1:03:05.04
5	高橋 秀樹	静岡	ヤマハ	1:03:05.94
6	野崎 鉄雄	東京	材入	1:03:22.18
7	漆戸 寛	東京	小田急電	1:05:01.15
8	佐藤 成彦	千葉	SPACE	1:06:00.30
9	追川 雅弘	神奈川	SRC	1:06:00.75
10	栗田 徳久	静岡	相川鉄工	1:06:49.18

## A-F (20km)

1	萩原麻由子	群馬	鹿屋体育大	39:11.96
2	真下 正美	神奈川	SPECIALIZED	39:24.52
3	山口 亮子	愛知	ダイヤル-ツク	39:24.54
4	西 加南子	千葉	スツバ和	40:25.88
5	永山 貴生	千葉	SPACE	41:48.12
6	小山美貴子	埼玉		41:56.02
7	村中恵美子	東京	カキヤマ	42:26.07
8	井上 玲美	東京	法政大学	43:13.75
9	森 智恵美	京都	順天堂大学	43:48.16
10	小淵 千恵	群馬	順天堂大学	43:55.17



# 平成17年度全国高等学校選抜自転車競技大会

(トラック:日本競輪学校333mバンク、ロード:日本サイクルスポーツセンター5kmサーキット)

高校生競技者の春の祭典、平成17年度全国高等学校選抜自転車競技大会が伊豆修善寺にて開催された。トラックは日本競輪学校333mバンク、ロードは日本サイクルスポーツセンター5kmサーキット(逆周り)にて実施された。

## 【1kmタイムトライアル】

穏やかな天候の中、タイムトライアルが開始された。前半は平凡なタイムが続いたが、後半に入った10組でインターハイ入賞の田口守(秋田:六郷②)が、1分9秒500(結果3位)で一桁台へ突入、13組の阿部大樹(埼玉:大宮工②)が、1分9秒328でタイムを更新(結果2位)し、残すところあと2組となった。今大会注目のシード選手4名の走りに注目が集まる中、14組出走の坂本貴史(青森:八戸工②)が、シーズン最初の大会でありながら、1分7秒728の好記録(大会新記録)でタイムを更新し勝負を決め優勝を飾った。

## 【3km個人追抜競走】

決勝はインターハイ準Vの脇本雄太(福井:科学技術②)と須永優太(福島:白河実②)の対戦。序盤から脇本がリードし、このまま勝負がつくのかに思われたが、後半の1km過ぎから須永が一気にペースアップし追い上げに入った。脇本もラスト踏み直すもフィニッシュはほぼ同時、僅差で須永に軍配が

男子個人追抜の勝者須永



あがった。3位には接戦を制した榎本剛士(和歌山:和歌山北②)が入賞した。

## 【スプリント】

決勝は、松川高大(熊本:九州学院②)と財前匠(大分:別府商②)の九州勢同士の対決。予選のタイムトライアルは財前が1番時計、松川が2番時計であっ



男子スプリント、1位 松川(左)と2位 財前

た。1本目はタイミングよく合わせて先行逃げ切り、2本目は直線追い込み危なげなく二本先取り、松川が全国大会初優勝を飾った。3位には佐渡空史(千葉:京葉工②)が入賞した。

## 【ポイントレース】

最終ゴールスプリントの着順次第で



男子ポイントの勝者、寺垣

は5名の選手に優勝のチャンス、その前の1回を含めれば15名の選手に優勝のチャンスが残される大接戦のポイントレースであった。注目される残り2回のポイント周回もポイントがバラけたため、寺垣慎太郎(富山:氷見②)が13点で優勝。2位には奥崎心吾(青森:青森山田②)11点、3位にはゴール着順で、内間康平(沖縄:北中城②)10点が入賞した。レース中盤に2名、後半に3名がそれぞれエスケープを試みるも決定打には至らなかったが、積極的な走りでレースを盛り上げた。

## 【ケイリン】

決勝は、実力上位の真船圭一郎(福島:白河実②)が3コーナーから大外追い込み優勝、2位には石口慶多(兵庫:三田学園②)、3位には山崎真之介(栃木:作新学院②)が入賞した。

男子ケイリン決勝、左から3位 山崎、2位 石口、1位 真船





### 【スクラッチ】

導入当初のゴールスプリントのみの単調なレースから、選手個々がそれぞれの脚質に合わせて展開を作ろうとする選手が増加してきた。決勝も残り1kmで巴直也(神奈川:法政二②)がロングスパートを敢行し、そのまま後続



男子スクラッチで一人逃げる巴

を振り切って優勝を飾った。2位以下は集団でのゴールスプリント。2位には山崎翼(大分:別府商②)3位には吉成貴博(熊本:千原台②)が入賞した。

### 【2km個人追抜競走】

決勝は川又千裕(鹿児島:南大隅②)と柁原彩(熊本:千原台①)の対戦であった。予選では約1.5秒川又が勝っており、決勝も予想通り序盤からリードしていた。しかし、柁原が残り2周を切ったところで追い上げを開始、対す

女子個人追抜の勝者、柁原



る川又はペースが上がらず僅差でフィニッシュし、柁原が0.5秒先着し、うれしい初優勝を飾った。3位には決定戦を制した平館美輝(岩手:紫波総合②)が入賞した。

### 【500mタイムトライアル】

全ての選手がバックストレッチより単独スタートにてトライアルが開始された。この種目、世代交代の激しいカテゴリーでもあるため、実績あるシード選手にとっても楽観はできない。昨年度1年生ながらワンツーを飾った、川又(南大隅②)と福島(千原台②)のほか、1

年生ながら成長著しい近藤(愛工大名電①)など、持ちタイムの良い選手が多く、緊張感のある種目となった。

優勝は、昨年度2位の雪辱を晴らした福島麻実(熊本:千原台②)が、唯一40秒を切り、39秒747で優勝、2位には1年生ながら、近藤美子(愛知:愛工大名電①)が40秒021、3位にも1年生の田中まい(千葉:千経大附①)が41秒032で入賞した。昨年優勝の、川又は2km個人追抜の後で疲れが残っていたのか振るわなかった。

### 【個人ロードレース男/女】

本年度より距離を伸ばし、日本CSCを逆周り男子12周60km、女子6周30kmにて実施された。

男子はレース序盤より、大久保障(鹿児島:鹿児島実業②)が様子見も含めて集団から飛び出し、森田大介(和歌山:和歌山北②)がこれに続く、その後集団より2名の選手が追走し、4名の集団を形成するも、残り周回3周で吸収された。すかさず、青柳(栃木:作新学院②)と入部(奈良:榛原昇陽①)の2名が集団より飛び出し、最終周回を迎えた。追走するメイン集団は約25名、ペースを上げ2号橋先の上りで2名を吸収し、再度集団を形成しゴールスプリントが展開された。ゴールスプリントを制した吉田隼人(奈良:榛原昇陽①)が優勝し、2位には竹之内悠(京都:立命館宇治②)、3位には初山翔(神奈川:麻溝台②)が入賞した。

周回中のペースも9分20秒前後、展開如何では単独でのエスケープも期待できるペースであったので、春先のレースとはいえ、積極的な動きが少なく展開に乏しかったのが少し残念であった。(出走175名中完走61名)

女子は序盤より、1年生の針谷千紗子(栃木:作新学院①)が独走態勢を作り逃げ切って優勝を飾った。2位には川又千裕(鹿児島:南大隅②)、3位には高橋久恵(岩手:紫波総合②)が入賞した。

### 【学校対抗】

学校対抗は、福島県立白河実業高等学校が21点で優勝、2位には法政大学第二高等学校19点、3位には別府市立別府商業高等学校14点でそれぞれ入賞した。

### 【総括】

開会式前日までは天候も思わしくなく、バンクコンディションが心配されたが、大会期間中は穏やかな天候の中で、開催することができた。春先の大会でもあり、記録更新に関しては期待薄であったが、1kmタイムトライアルで7秒台の大会新記録が誕生するなど、改めて高校生パワーを感じた大会であった。

施設面でのご協力を賜りました日本競輪学校、地元県車連をはじめとする関係各位のご理解と、ご協力により大きな事故もなく無事大会を終了することができました。紙面をお借りしまして、心から感謝申し上げます。

(全国高体連 中田 将次)



女子ロードレース、集団を引く勝者の針谷



男子ロードレース序盤のトップ集団



男子ロードレースゴールスプリントを制した吉田(中央)

6 小野寺圭佑 青森 八戸工業高 3:53.071

男子ケイリン

- 1 真船圭一郎 福島 白河実業高校
- 2 石口 慶多 兵庫 三田学園高校
- 3 山崎真之介 栃木 作新学院高校
- 4 神野 貴大 高知 高知東工業高校
- 5 宮崎 康司 香川 石田高校
- 6 中村 亮太 熊本 千原台高校

男子スプリント

- 1 巴 直也 神奈川 法政二高校
- 2 山崎 翼 大分 別府商業高校
- 3 吉成 貴博 熊本 千原台高校
- 4 小西 悠貴 京都 北桑田高校
- 5 森 啓 岐阜 岐阜第一高校
- 6 松田 大樹 大分 日出暁谷高校

男子ポイントレース

- 1 寺垣慎太郎 富山 氷見高校 13p
- 2 奥崎 心吾 青森 青森山田高校 11p
- 3 内間 康平 沖縄 北中城高校 10p
- 4 千葉 大輔 岩手 紫波総合高校 10p
- 5 伊藤 雅和 神奈川 法政二高校 9p
- 6 新井 由郁 埼玉 小松原高校 8p

男子個人ロードレース(60km)

- 1 吉田 隼人 奈良 榛生昇陽高 1:52:04
- 2 竹之内 悠 京都 立命館宇治 1:52:04
- 3 初山 翔 神奈川 麻溝台高校 1:52:04
- 4 伊藤 雅和 神奈川 法政二高校 1:52:04
- 5 木守 望 和歌山 紀北工業高 1:52:04
- 6 内間 康平 沖縄 北中城高校 1:52:04
- 7 半田 信頼 千葉 京葉工業高 1:52:04
- 8 松井 響 京都 北桑田高校 1:52:04
- 9 平塚 吉光 静岡 修善寺工高 1:52:04
- 10 寺垣慎太郎 富山 氷見高校 1:52:08

男子総合成績

監督名

- 1 白河実業高校 福島 田崎今日児 21p
- 2 法政二高校 神奈川 渋谷 敦志 19p
- 3 別府商業高校 大分 羽田野昭人 14p

女子500mタイムトライアル

- 1 福島 麻実 熊本 千原台学校 39.747
- 2 近藤 美子 愛知 愛工大名電高 40.021
- 3 田中 まい 千葉 千葉経済附属 41.032
- 4 川又 千裕 鹿児島 南大隅高校 41.285
- 5 柘原 彩 熊本 千原台高校 41.590
- 6 針谷千紗子 栃木 作新学院高校 41.601

女子2km個人追抜競走

- 1 柘原 彩 熊本 千原台高校 2:47.031
- 2 川又 千裕 鹿児島 南大隅高校 2:47.533
- 3 平舘 美輝 岩手 紫波総合高 2:53.252
- 4 石井 愛 京都 花園高校 2:54.733
- 5 上野 左智 大分 別府商業高 2:53.245
- 6 松尾 智佳 愛媛 済美高校 2:55.208

女子個人ロードレース(30km)

- 1 針谷千紗子 栃木 作新学院高 1:08:41
- 2 川又 千裕 鹿児島 南大隅高校 1:09:23
- 3 高橋 久恵 岩手 紫波総合高 1:09:51
- 4 明珍 裕子 鹿児島 鹿児島実業 1:10:49
- 5 上野 左智 大分 別府商業高 1:11:01
- 6 内田菜穂子 大阪 関西大倉高 1:11:37
- 7 柘原 彩 熊本 千原台高校 1:13:07
- 8 近藤 美子 愛知 愛工大名電 1:13:33
- 9 石井 愛 京都 花園高校 1:14:45
- 10 松尾 智佳 愛媛 済美高校 1:16:42

[ 競技結果 ]

第22回全国高等学校選抜自転車競技大会  
(2006/3/24-27 静岡・日本CSC)

男子1kmタイムトライアル

- 1 坂本 貴史 青森 八戸工業高 1:07.728
- 2 阿部 大樹 埼玉 大宮工業高 1:09.328
- 3 田口 守 秋田 六郷高校 1:09.500
- 4 角口 聖也 千葉 京葉工業高 1:10.219
- 5 才迫 勇馬 広島 黒瀬高校 1:10.295
- 6 不破 将登 岐阜 岐南工業高 1:10.327

男子スプリント

- 1 松川 高大 熊本 九州学院高校

- 2 財前 匠 大分 別府商業高校
- 3 佐渡 空史 千葉 京葉工業高校
- 4 山崎 功也 秋田 能代西高校
- 5 雨谷 一樹 栃木 作新学院高校
- 6 大島 将人 福島 白河実業高校

男子3km個人追抜競走

- 1 須永 優太 福島 白河実業高 3:42.734
- 2 脇本 雄太 福井 科学技術高 3:43.322
- 3 榎本 剛士 和歌山 和歌山北高 3:50.710
- 4 髙田 義明 埼玉 川越工業高 3:50.846
- 5 海老瀬将太 京都 北桑田高校 3:51.838

# 第7回チャレンジ・ザ・オリンピック

## 渡邊一成(JPCA福島)2種目で設定基準タイム更新



2000年からオリンピック有望選手発掘を目的としてスタートした「チャレンジ・ザ・オリンピック」今年にはトラック世界選(フランス)終了後の4月23日(日)に静岡県伊豆市・日本サイクルスポーツセンター・250mトラック競技場において開催された。

ナショナルチーム・強化指定選手の再編成に伴う選手選考のための記録会として全国から110名がエントリーし93名が雨のなか出場した。初めに予定されていた200mフライング・タイム・トライアルは、雨のため最後の番組に回されたが、午後になっても雨はあがらず、急遽会場を競輪学校333mトラック競技場に移して行われた。

今回基準設定タイムを更新した選手は、男子は250mTTでは渡邊一成(JPCA

福島)200mフライングTTでは金子貴志(JPCA愛知)及川裕奨(JPCA岩手)永井清史(JPCA岐阜)北津留翼(JPCA福岡)渡邊一成の5名、3kmTTでは今年40歳のベテラン飯島規之(JPCA埼玉)の計6名。女子では200mフライングTTの佃咲江(北海道)ただひとりであった。



### [記録]

第7回チャレンジ・ザ・オリンピック  
(2006/4/23 静岡・日本CSC250mトラック  
/日本競輪学校333mトラック)

#### 男子200mフライング・タイムトライアル

1	金子 貴志	10.32
2	及川 裕奨	10.44
3	永井 清史	10.47
4	北津留 翼	10.49
5	渡邊 一成	10.53
6	稲垣 裕之	10.62

#### 男子250mタイムトライアル

1	渡邊 一成	18.251
2	北津留 翼	18.685
3	永井 清史	18.814
4	成田 和也	18.825
5	金子 貴志	18.855
6	新田 祐大	18.911

#### 男子1kmタイムトライアル

1	渡邊 一成	1.06.551
2	新田 祐大	1.06.577
3	及川 裕奨	1.07.077
4	松崎伊佐央	1.07.407
5	稲垣 裕之	1.07.573
6	青森 伸也	1.08.415

#### 男子3kmタイムトライアル

1	飯島 規之	3.33.076
2	西谷 泰治	3.37.143
3	川西 貴之	3.40.208
4	盛 一大	3.40.691
5	飯島 誠	3.40.706
6	小豆畑郁也	3.42.143

#### 女子200mフライング・タイムトライアル

1	佃 咲江	11.88
2	篠崎 新純	12.47
3	岡 希美	12.55
4	沼部早紀子	12.64
5	栗原 瞳	12.96
6	川満 佳子	13.09

#### 女子500mタイムトライアル

1	佃 咲江	37.788
2	沼部早紀子	38.949
3	篠崎 新純	39.366
4	川満 佳子	39.486
5	岡 希美	39.785
6	栗原 瞳	40.408

#### 女子3kmタイムトライアル

1	大塚 沙織	4.12.71
2	萩原麻由子	4.13.233
3	村中恵美子	4.21.50
4	小淵 千恵	4.27.242
5	森 智恵美	4.30.619
6	堀 友紀代	4.30.970



日本航空
空で逢いましょう。

Dream Skyward.

**JAL**

ご予約・お問い合わせ

[www.jal.co.jp](http://www.jal.co.jp)

国内線 ☎ 0120-25-5971  
(営業時間 6:30~22:00/年中無休)

国際線 ☎ 0120-25-5931  
(営業時間 8:00~21:00/年中無休)

# 世界大学自転車競技選手権大会

16年ぶりの開催に17ヶ国が参加



ユニバーシアードで自転車競技が開催されたのは、1983年のカナダ・エドモントンが最後。本大会はユニバーシアードではなく、世界大学自転車競技選手権大会であるが、これも開催は不定期で第一回開催は1978年アントワープ、前回開催はスペインで1990年、実に16年ぶり第4回目の開催である。最短で2年毎の開催だが、次回開催は正式には未定。

開催地はベルギー・アントワープ近郊の町ヘンタール。自転車競技を国技とするベルギーの中でも、一段と自転車にゆかりのある地である。ロードやシクロクロスの世界チャンピオンを輩出し、フレミッシュ地方の自転車学校がある地でもある。

参加国はベルギー、ドイツ、フィンランド、ハンガリー、アイルランド、イタリア、日本、レバノン、リトアニア、ルクセンブルグ、オランダ、ポーランド、ポルトガル、チェコ、イギリス、南アフリカ、ロシアの17カ国。

自転車競技は学生スポーツとしてはヨーロッパでもメジャーとは言い難い

面があるが、日本の大学生の競技力を世界で確かめる良い機会と捉え、開催1ヶ月前の招待情報入手から急遽派遣団を編成した。実施種目・日程は、3月23日：男・女ロードタイムトライアル、3月24日：男子シクロクロス、3月25日：男・女ロードレースである。

コース

ロードレースとタイムトライアルは同一で、選手宿舎でもあるBLOSOの周辺をまわる1周6.8kmの周回コース。若干の農家がある他は殆ど人家のない地域で、ほぼ平坦。セメント舗装の部分があり日本に比べれば路面は荒いが、それほどひどい路面ではない。信号はひとつも無い。

## 競技概要

### ロード・タイムトライアル

16年ぶりの大会で宮崎杏菜が、日本人としての最初のスタートを切った。1分間隔の出走であるが、周長が短いため、最大8名までのグループに分けて出走するシリーズ方式となった。結果は日本女子は全体の中で中位につけたものの、男子は下位グループにとどまった。レベルの違いを思い知らされる結果であったが、トレーニング次第でより上位をねらえる感触が得られた、という面もあった。

### シクロクロス

コースは、選手宿舎であるBLOSOの周辺をまわる1周2.2kmの周回コース。



女子タイムトライアルスタートの宮崎



シクロクロス

男子ロードレース日本人最高位の辻



宿舎裏手の公園、池の周囲を回る設定で、築山・砂地などの人口障害物が設営されているが、殆ど自転車を降りることなく走り切れる、パワーとスピードが要求されるコース設定。13時から子供部の競技・練習も行われ、賑やかな、和やかな雰囲気の中で競技は行われた。

スタート地点から公園内の未舗装路に入るまでの間で、日本勢は最後尾になってしまう。先頭では6名程度が集団を形成し、砂地での通過スピードの違いは歴然としている。徐々に差は拡

がり、レース開始後20分程度で山本が、続いて石井も1周遅れとなってしまう。遠路はるばるやってきた選手団への配慮と管理容易なレース展開からか、審判団から失格のコールは無く、二人ともレースを続行。後半二人ともペースをつかみ、2名とも1周で完走した。夕食時、優勝した(?)ドイツの選手に話を聞いたところ、建築学部4年生とのこと。体格的に日本選手と歴然とした差があるわけでもない。練習環境の違いが大きいのだろうか。



女子ロードレース日本人最高位、萩原のフィニッシュ

## 女子ロード・レース

朝から雨が降り、路面は周囲の林から流れ込んだ馬糞まじりの泥で覆われた。

前半、抑え気味のペースでレースは進行し、残り7周回で6名が飛び出して先頭集団を形成(オランダ1、ベルギー1、イタリア1、ロシア1、ドイツ2)。次の周で20秒程度の差となり、山宮コーチから「二人で追え」と指示が飛ぶ。しかし、雨の為に無線機が不調で選手には伝わらない。差は徐々に広がり、1分35秒に。メイン集団の追い上げが始まり、一時1分程度まで差は詰まる。残り2周では萩原は、メイン集団先頭で積極的に追いつけてペースを作る。しかし有力国メンバーがすべて入った先頭集団に対して、メイン集団全体としてはペースが上がらず、50秒差でフィニッシュ。萩原はメイン集団の3番目でフィニッシュし、9位に。宮崎はメイン集団内20位でフィニッシュした。

## 男子ロード・レース

前半、集団は一体のまま推移する。2周目に日本の辻が飛び出しを図るが決まらず。11周目に6名が飛び出す。続いて10名の第二集団、大集団まで30秒、という構成になるが、やがて第二集団は先頭集団に追いつく者とメイン集団に吸収される者に分かれ、9名の先頭集団とメイン集団、という構成に落ち着く。(オランダ3、ベルギー1、イタリア2、ドイツ1、リトアニア1、チェコ1)タイム差は徐々に拡がり、残り2周時点で約2分に。

あと1周で、メイン集団から三瀬とイタリア2名の3名が飛び出し、概ね1周にわたって3人体制で追撃を試みるが決まらず。フィニッシュの直線に入る手前でメイン集団に捕まってしまう。日本勢はメイン集団内での着順争いとなるなか、中島らが先頭付近に位置取り、続く辻が前に出て集団の5番手でフィニッシュし14位。後半バンクに見舞われた秋山も含め全員がメイン集団でのフィニッシュとなった。

## 大会運営

大会運営は総じて簡素で、宿舎まわりにすべての機能が集約しており、運営人員も少数でシンプル。事前準備にやや不十分な面が感じられたものの、自転車学校の先生や生徒・関係者を始め、地元の人々の幅広い協力体制が見て取れ、臨機応変に対応していた。宿舎の自転車置き場の鍵の管理人だった

Ludo氏は1978年のアントワープ大会で金谷選手と走ったことがあるとのことで、とりわけ日本チームに気を遣ってくれた。アントワープ大学の学生や若いOBが車両の運転やレセプションを担当している。こうした自転車競技を愛好し支援し続ける層の厚さが、スムーズな運営の基盤であろう。

### 雑感

現地在住スタッフの支援もあり現地情報充分で、短期間での派遣団編成には円滑に準備できたと思われる。それでも器材の不備などがあり、今後の課題としたい。

シクロクロスが行われた日の午前中、宿泊施設で世界大学自転車会議が行われた。議論されていた各国の抱える課題は日本とそう違うものではない、という印象を受けたほか、ドイツに2年後の大会誘致に積極的な発言があった。各国の大学関係者との交流を深めると共に、ベルギー国営自転車学

校を視察させてもらうなど、忙しくも有意義な派遣であった。

日本の学生にとってインカレの向こうにある目標として位置づけることのできる大会であると実感できたとし、2年後にはドイツ開催の可能性が高い。定例的に参加して日本の競技力向上と指導・大会運営面も含めた国際化を果たし、将来的には日本で開催して優秀な成績をおさめたいところである。

(松倉 信裕)

### [ 競技結果 ]

世界大学自転車競技選手権大会  
(2006/3/23-25 ベルギー・アントワープ、ヘンシャル)

女子ロード・タイムトライアル (13.6km)

1	GUNNEWIJK Loes	NED	18:11.66
2	VAN DIJK Ellen	NED	18:40.16
3	JOOSS Verena	GER	18:55.28
10	萩原麻由子	鹿屋体育大学	20:10.66
13	宮崎 杏菜	鹿屋体育大学	20:45.96

男子ロード・タイムトライアル (27.2km)

1	VAN RUITENBEEK Malaya	NED	33:39.55
2	ERLER Tobias	GER	33:40.68

3	VAN AELBROECK Michael	BEL	34:01.34
19	秋山 英也	日本大学	37:24.82
21	三瀬 光誠	鹿屋体育大学	37:38.89

男子シクロ

1	HANNOVER Sebastien	GER	48:46
2	BULT Alex	NED	48:47
3	VAN DEN BOSH Tom	BEL	48:59
15	石井 陽	立命館大学	-1lap
16	山本 貴士	京都大学大学院	-1lap

女子ロードレース (88.4km)

1	VAN DIJK Ellen	NED	2:21:00
2	LUTZ Eva	GER	2:21:00
3	HENRION Ludivine	BEL	2:21:00
9	萩原麻由子	鹿屋体育大学	2:21:50
20	宮崎 杏菜	鹿屋体育大学	2:21:50

男子ロードレース (142.8km)

1	KUSTERS Yvo	NED	3:08:00
2	VAN AELBROECK Michael	BEL	3:08:00
3	VAN RUITENBEEK Malaya	NED	3:08:00
14	辻 善光	立命館大学	3:10:42
25	三瀬 光誠	鹿屋体育大学	3:10:42
27	秋山 英也	日本大学	3:10:42
40	村上 純平	鹿屋体育大学	3:10:42
45	中島 康晴	鹿屋体育大学	3:10:42



## 2005年UCIサイクルサッカー・ワールドカップ・ファイナル

オーストリアが優勝、チームフジは10位



### [ 競技結果 ]

2005年UCIサイクルサッカー・ワールドカップ・ファイナル  
(2006/4/1 ドイツ・Ober-Olm)

1	Simon König / Dietmar Schneider	RC Mazda Höchst I	AUT
2	Timo Reichen / Peter Jiricek	RV Winterthur	SUI
3	Miroslav Berger / Jiri Hrdlicka	Favorit Brünn II	CZE
10	森 茂史・黒田 岳	Team Fuji	JPN

4月1日、ドイツ・オーバーオルム(Ober-Olm)に於いて2005年UCIサイクルサッカー・ワールドカップの最終戦(決勝大会)が開催された。

サイクルサッカー・ワールドカップは2005年5月より世界各地で開催され、2005年10月17日に開催された第7戦東京大会の結果によりアジア地区代表となったチームフジがこの最終戦に出場した。

日本からのチームフジは森 茂史と黒田 岳2名が参戦し、10位となった。



## JCF 維持会員のお願い

本連盟は平成7年5月にプロ、アマ統合によりわが国における自転車競技界を代表する団体として発足して以来、自転車競技の普及・振興に係る諸事業を展開してまいりました。今後も自転車競技のさらなる発展を期し、国内大会の充実や国際大会の開催・派遣等活発な事業展開を図る所存であります。しかしながら、これらの事業活動には多額の経費を必要といたしますが、本連盟の運営財源の過半を占める日本自転車振興会の公益補助金が平成18年度は最盛期の53%まで減額されてきております。このような厳しい状況から、連盟事務局は経費節約に努める一方自主財源の増額を図ることが必要となっております。

本連盟では、自主財源確保の一環として従来から維持会員制度に基づき会員各位のご支援を仰いで参りました。つきましては、平成18年度におきましても、出費ご多端の折誠に恐縮とは存じますが、何卒かかる実情をご理解いただき、自転車競技の健全な普及・振興のためご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

### 1 維持会費(平成18年度分)

個人会員:年額10,000円を一口とし、一口以上。 団体会員:年額50,000円を一口とし、一口以上。

### 2 ご送金について

下記口座にお振込み下さいますようお願い申し上げます。

りそな銀行 東京公務部 普通預金 6104013 (財)日本自転車競技連盟

自動振込機でご送金の場合で東京公務部が表示されない場合は虎ノ門支店でご入力願います。

## - 平成17年度維持会員名簿 -

### < 団体会員 >

株式会社NIPPOコーポレーション・日本写真判定株式会社・日本プロフェッショナルサイクリスト協会・株式会社レキップ・株式会社アド東北・有限会社ケイデザインカンパニー・シマダ記章株式会社・大和紡績株式会社 ゴム事業部・株式会社ディプロマット・株式会社日刊プロスポーツ新聞社・社団法人日本競輪選手会 徳島支部・日本道路株式会社 営業本部・ブリヂストンサイクル株式会社・有限会社メダリストプランニング

### < 個人会員 >

穴田 勝彦・猪狩 晋一・伊熊 牧治・石原 正和・市川 孝雄・岩井正二郎・岩城 光英・江崎 鶴彦・江原 敏郎・岡田 行雄・岡本 満男・岡本 雄作・音田 進・小野 盛秀・桂 正洋・加藤 昭・川崎 寿男・川手 一則・國枝 一成・熊沢 元降・小林 智昭・斎藤 博・佐久間重光・佐久間信司郎・清水 弘裕・主演 春蔵・白井 滋・菅野 一・杉原鏑一郎・鈴木 孝幸・妙中 義之・高野 晃・高橋 耕作・高橋 正雄・田子 和彦・竹花 敏・多田 耕造・近成 保・辻本 誠・富樫 慎治・富原 忠夫・中西 泰三・中原 曙観・中村 賢二・成田 昇・萩原 重一・平野 禎・古作 太一・増田 亨・松倉 信裕・宮本 敏夫・村田 統司・村田 隆宣・森 清一・山口 清孝・大和 孝義・鷲田 紀夫・渡邊 淳(五十音順)

## 末永くお付き合いいただくために。



シマノ製品をご愛用いただきまして

ありがとうございます。

シマノではユーザーの皆様にも、当社製品と

末永くお付き合いいただけるよう、

各種補修用パーツをご用意しております。

- 製品についている取扱説明書をご使用前に必ずお読みください。
- 機能保証のために分解できないパーツもあります。
- お近くの自転車店でご相談下さい。別途送料がかかる場合があります。
- 在庫状況により、品切れの場合もあります。予めご了承下さい。

# SHIMANO

www.shimano.com

XBC001-A

## 平成 17 年 JCF 優秀選手について

平成 17 年度に国際大会で活躍した 7 名の選手に優秀選手として褒賞金が贈られた。

兼平 純	岩手・日本大学	2005年ジュニア世界選(8/7-10 オーストリア)	ポイントレース 6位
西谷 泰治	愛知・愛三工業	トラックワールドカップ第3戦(2/20-22 ロス)	スクラッチ 3位
沖 美穂	JPCA・元・ス・カ・カ	女子ロードワールドカップ第1戦(2/26 オーストラリア)	個人ロード 2位
盛 一大	愛知・愛三工業	トラックワールドカップ第4戦(3/3-5 シドニー)	ポイントレース 2位
井上 昌己	JPCA・JPCU長崎	トラックワールドカップ第4戦(3/3-5 シドニー)	チームスプリント 3位
金子 貴志	JPCA・JPCU愛知	トラックワールドカップ第1戦(11/4-6 モスクワ)	スプリント 3位
		トラックワールドカップ第4戦(3/3-5 シドニー)	チームスプリント 3位
渡邊 一成	JPCA・JPCU福島	トラックワールドカップ第4戦(3/3-5 シドニー)	チームスプリント 3位

## 平成17年度 全国自転車競技指導者研修会

本連盟主催の有資格指導者対象の研修会が、3月25日(土)に日本自転車会館にて開催された。

講義は、ロード競技部会員の大門宏氏による「最新海外事情」及び森永製菓健康事業部管理栄養士久保田尚子氏による「強い自転車競技選手を育てるための栄養からのアプローチ」が行われた。

## 春の褒章で中野浩一氏が紫綬褒章を受章

中野 浩一氏(本連盟・選手強化技術顧問・50歳)が世界選手権自転車競技大会10連覇(1977年~1986年)の業績により紫綬褒章を受章されました。

## 加盟団体事務局住所等の変更について

## 青森県自転車競技連盟

〒030-0913 青森県青森市東造道 1-6-1  
青森県立青森商業高等学校内 三上 様方  
TEL: 017-736-6116 FAX: 017-736-5188

## 鹿児島県自転車競技連盟

〒893-2303  
鹿児島県肝属郡錦江町馬場 1553-1  
木下 様方 TEL & FAX: 0994-22-3239

## 全国高体連自転車競技専門部

〒403-0017 山梨県富士吉田市新西原 1-23-1  
山梨県立富士北稜高等学校内 川上 様方  
TEL: 080-1058-6656 FAX: 0555-30-0173

## JCF新理事の紹介

## 松本 秀憲 (48)

マツモ ヒデアキ

熊本県自転車競技連盟

平成 18 年 3 月 27 日開催  
の平成 17 年度第 2 回評議員  
会で選任されました。

## 連盟の動き (3月下旬~4月中旬)

3月23日	(財)日本オリンピック委員会評議員会	於: 東京・岸記念体育会館
27日	平成17年度第2回評議員会	於: 東京・自転車会館
29日	(財)日本体育協会評議員会	於: 東京・岸記念体育会館
4月4日	平成18年度公益補助金内定伝達式 トラック強化合宿	於: 東京・新霞ヶ関ビル
8日	トラック世界選手権日本代表選手団出発	於: 静岡・日本CSC (~7日)
22日	ツール・ド・とうほく実行委員会	於: フランス・ポルドー(帰国 18日) 於: 宮城・仙台



シクリスムエコー No.128 2006年4月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟 事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-15 日本自転車会館内

TEL 03-3582-3713 FAX 03-5561-0508

URL <http://www.jcf.or.jp/>

JCF協賛スポンサー



プリチストンサイクル株式会社

